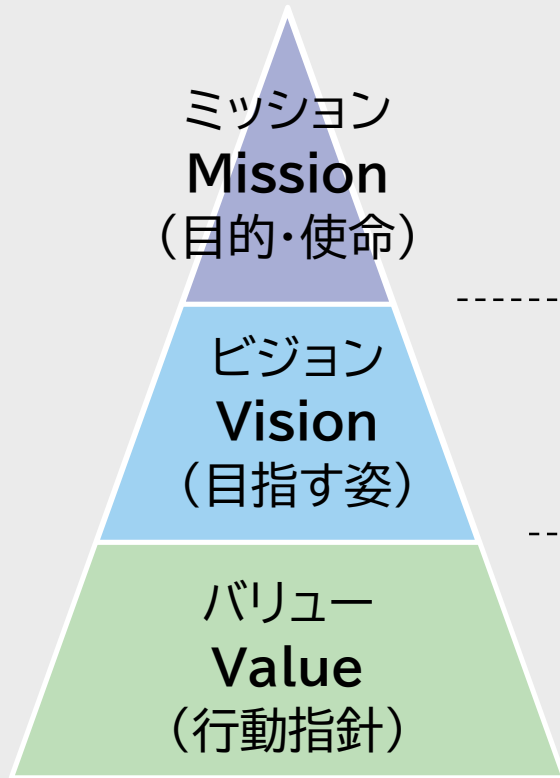


北九州市DX推進計画(第2期)概要(総論)

2021年12月策定・2025年4月改定

市が目指す姿



2040年を目標に、当面7年間を集中取組期間とする

デジタルで快適・便利な幸せなまちへ

市民の視点から、「市民でよかったと感じられる市役所」
職員の視点から、「職員でよかったと感じられる市役所」

「市民サービスの向上」 ユーザー(市民)視点で
「業務効率化」 人口減少の未来を見据えた効率化
「働き方改革」 内なるユーザー(職員)の環境整備

DX推進の
スローガン

①「書かない」「待たない」「行かなくていい」市役所へ

②「きめ細かく」「丁寧で」「考える」市役所へ

③「働きやすく」「いきいきと」「成果を出す」市役所へ

北九州市DX推進計画(第2期)概要(各論)

① マイナンバーカードの普及・利用の促進 取組の方向性・目標 ✓市民サービス向上につながる マイナンバーカード利活用 ✓利便性・安全性の周知と 申請・交付体制の充実 取組内容 ・カード利活用先拡大 ・交付円滑化・P R 	② フロントヤード改革の推進 取組の方向性・目標 ✓区役所に行く場合でも、窓口で 書く、待つ場面を減らす ✓定型・大量業務を集中処理する バックヤードを整備する など 取組内容 ・スマラク区役所サービス プロジェクト 	③ デジタル・デバйд対策 取組の方向性・目標 ✓新たなデジタル技術に関心を 持ってもらう機会の創出 ✓デジタルを導入した市民サービスの 活用率80%を目指す など 取組内容 ・普及啓発 ・初心者向け講座 ・デジタル化行政サービスの体験会 	④ B P R(業務改革)の取組の徹底 取組の方向性・目標 ✓全庁統一的な手法のもと、 自発的・継続的にB P Rに 取り組む ✓窓口職員の作業時間 50%削減を目指す など 取組内容 ・D X変革リーダーの定着支援 ・ノンコア業務を集約した 行政事務センターの業務拡大 	①「書かない」「待たない」「行かなくていい」 ②「きめ細かく」「丁寧に」「考える」 ③「働きやすく」「いきいきと」「成果を出す」 ④ 3つのスローガン（DX推進）を支える取組
⑤ A Iなど先端技術の利用促進 取組の方向性・目標 ✓AIなど先端技術によるDX推進 ✓先導的なAI×データ活用プロジェ クトの創出2件以上 ✓年間合計150,000時間の 作業時間削減を目指す など 取組内容 ・AI等の導入及び活用促進 ・先端技術の調査研究 	⑥ データの利活用 取組の方向性・目標 ✓行政の保有するデータを 政策立案・評価に利活用する ✓民間の公共データ利活用を推進 する など 取組内容 ・オープンデータの拡充 ・データ分析基盤等の 構築 ・データ連携基盤の構築等検討 	⑦ 働き方改革 取組の方向性・目標 ✓職員の柔軟な働き方や、持続可 能なエンゲージメントの向上を実 現する環境づくりをすすめる など 取組内容 ・オフィス改革 ・テレワーク環境の 整備やペーパーレス化の推進 ・意識改革、職場風土の変革 	⑧ 丁寧に分かりやすい広報・P R 取組の方向性・目標 ✓デジタル化・オンライン化で便利に なるサービスを実感してもらう ✓デジタルを導入した市民サービス の認知度90%を目指す など 取組内容 ・あらゆる媒体を活用 ・高齢者等への広報・P R ・「北九州市情報化アンケート調査」 の活用 	刷新した項目
⑨セキュリティ対策の徹底 取組の方向性・目標 ✓環境の変化に対応した情報セキュ リティマネジメントを図る ✓適切な個人情報保護 など 取組内容 ・情報セキュリティポリシーの改正 ・ゼロトラストを踏まえた セキュリティ対策 ・外部監査の実施 	⑩デジタル人材の確保・育成 取組の方向性・目標 ✓高度専門人材の確保・育成 に努める ✓継続的に全職員の約3分の1 をDX人材として育成 など 取組内容 ・デジタル区分での採用 ・外部人材の確保 ・民間事業者や大学などと連携 した体系的な人材育成 	⑪基幹業務システムの標準化 取組の方向性 ✓令和9年度末までに標準準拠シス テムへの移行を目指す ✓全業務システムの安定稼働を見据 えたシステム基盤の構築・運用 など 取組内容 ・業務プロセスの見直し ・新たなデータ連携の仕組みの構築 ・ガバクラへの移行にかかる検討 ・システム共通基盤の見直し 		

北九州市DX推進計画(第2期)概要(将来展望)

(1) 新しい行政へのアップデート

新たな行政のサービスモデルへ



市役所DXで、「市民サービス向上」「業務効率化」「働き方改革」に三位一体で取り組み、それにより生み出された時間とマンパワーを使って、今後は「**一歩先の価値観**」を体現する新しい行政のサービスモデルを創出していきます。

デジタル技術を最大限に活用し、

1 行政需要への先回り

市民・地域・企業の行政需要を先回りしてつかみ、必要な対策について先手を打ちます。

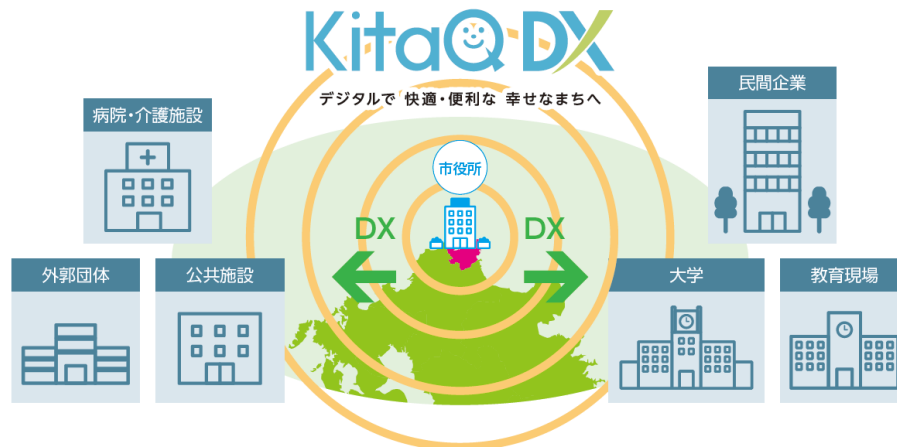
2 一人一人にフィットしたサービスの提供

データの有効活用等により、市民一人一人にフィットした一気通貫の行政サービスをプッシュ型で提供していきます。

3 市民・地域・企業のマッチング

アウトリーチでタイムリーに、必要な人に必要なサービスと情報を届けるなどして、市民・地域・企業をマッチングします。

(2) 地域DXの推進



市役所DXの取組を市役所外に波及させることで、部局や官民、さらには自治体内外の垣根も越えて、ゆるやかで大きなチームとして、社会課題の解決や、新たな価値の創造を目指す地域全体でのDXを推進します。

北九州地域に住み、働き、訪れる人、一人一人が「デジタルで快適・便利な幸せなまち」を実感できる、「**一歩先の価値観**」を体現するサステナブルシティを実現していきます。

(例)

- ・市内企業のDXを推進（企業DX）
- ・DXをけん引する人材を育成（地域のDX人材育成）
- ・公共交通の利便性向上（公共交通DX）
- ・教育の質を高める教育DX・教職員の負担軽減につながる校務DX
- ・文化芸術やスポーツ、観光の振興
- ・地域全体で防災力を高める取組（防災DX）
- ・公共施設や社会インフラの維持管理の高度化・効率化（建設DX）
- ・保健・医療・介護・福祉サービスの維持・充実や、地域全体での見守り・支えあいの強化、相談支援体制の整備
- ・デジタル技術も取り入れた救急医療体制

主要な取組のロードマップ

